

まえがき

本書にあるルールは、仕事経験もなく英語もできない中、米国でアメリカ人とともに戦い、熾烈な出世競争を生き抜いてきた私の体験が満載されています。

そういうことで、各項目にそれぞれ深い思い出があります。特に失敗のです。失敗ばかりしていた私ですが、独立する前にサラリーマン・コンサルタントとして米国で勤務していた KPMG とプライスウォーターハウスの両社で、素晴らしい上司たちに巡り会いました。

非常に厳しい上司たちでしたので、周りの部下たちは、彼らから距離を置いていました。一方、私は同業で独立することを考えていたので、彼らの懐に飛び込み、すべてを学び盗もうと毎日必死でした。そのひたむきな姿勢を上司たちは高く評価してくれ、彼らが出世する度に、できない私を引き上げてくれたのです。従って、実力派の彼らがスピード出世する中、私までセットで彼らと一緒に昇進させてもらったのです。

その体験を通して思いました。出世に必要なことは、技術的なことではないと。むしろ重要なのは、仕事や周りの人に接する前向きな姿勢です。それが「出世のルール」の基礎です。

渡米する前、私は日本の学校教育において、とんでもない「劣等生」であり、「負け組」でした。今から考えたら、私は勉強のルールを守っていなかったのです。ですから、勉強ができるわけがなかったのです。

人間社会には、どこに行ってもルールが厳然と存在します。「原因と結果の法則」から、そのルールを守れば成果が出るし、守らなければ当然成果は出ません。非常に簡単であたりまえなのです。そのため、もし、出世したければ、その「出世のルール」に従えばいいのです。しかし、様々な方から相談を受けてわかったのですが、そのあたりまえのルールを実践している人があまりにも少ないのです。その人たちは、出世どころか、勤務を続けられることすら危ういのです。

この本を書いた理由は、その人たちへの応援のためです。ぜひ、私と一緒に「出世のルール」を実践し、成果を出してみませんか！

浜口直太